

▼リクラスト点滴静注液 [注]

【重要度】★★【透析患者に投与禁忌】 【一般製剤名】ゾレドロン酸水和物 zoledronic acid hydrate 【分類】骨粗鬆症治療剤 [ビスホスホネート]

【単位】▼5mg/瓶 [100mL]

【常用量】5mg/年

【用法】15分以上かけて点滴静注■脱水状態の患者は禁忌 (1)

【透析患者への投与方法】禁忌 (1)

【その他の報告】副作用に注意して適用できる可能性はあるが、定期通院している患者に適用する必要性は低いかもしれない (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】Ccr 35mL/min 未満では禁忌 [AKI 発現のおそれ] (1)

【その他の報告】Ccr 40mL/min 未満の患者での PK は検討されていない (1)

【特徴】1年に1回使用するビスホスホネート。AKI のリスク評価、電解質補正、歯科処置など投与前に確認しておく事項に注意。

【主な副作用・毒性】AKI, 間質性腎炎, ファンコニー症候群 (低リン血症, 低 K 血症, 代謝性アシドーシス等を主症状とする近位腎尿管障害), 低 Ca 血症, 顎骨壊死・顎骨髄炎, 外耳道骨壊死, 大腿骨転子下及び近位大腿骨骨幹部の非定型骨折 アナフィラキシー, 消化器症状, 皮膚症状など

【安全性に関する情報】中等度の腎機能障害のある患者、腎毒性を有する薬剤又は利尿剤を併用中の患者では AKI のリスクから慎重投与 (1) AKI は開始後 1 か月以内に多い (1) 急性期反応として発熱、関節痛、倦怠感が多い (1) 腎毒性は AUC よりも Cmax に依存 (1) AKI マーカーは上昇しないが、PTH の上昇は投与後 1 ヶ月程度持続する (Cipriani C, et al: Br J Clin Pharmacol 2017 PMID: 28543687)

eGFR 30mL/min/1.73m² 未満でビスホスホネートによる低 Ca 血症のリスク増加 (1)

AKI と RRT 導入症例 (Liran R, et al: Isr Med Assoc J 2023 PMID: 38142324)

【代謝】代謝を受けない (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率 45% [iv, 24hr まで] (1)

【CL】5.74L/hr [女性] (1) 腎 CL 3.7L/hr [女性] (1)

【t1/2】74hr (1) 血中濃度は 24hr 後に Cmax の 1%以下に低下 (Shiraki M, et al: J Bone Miner Metab 2016 PMID: 28000034)

【蛋白結合率】55~63% (1)

【Vd】Vss 575L/man (1)

【MW】290.10

【透析性】資料なし (1)

【O/W 係数】0.01 未満 [1-オクタノール/リン酸 buffer, pH7.4] (1)

【相互作用】血清 Ca に影響する薬剤, AKI に関連する薬剤との併用注意 (1)

【妊婦・授乳婦への投薬】妊婦に禁忌 (1)

【主な臨床報告】閉経後骨粗鬆症に対して骨折リスクを低下させ、骨密度を上昇させる (Wang C: Am J Ther 2016 PMID: 26938765) 他のビスホスホネートに比べ費用対効果に優れる (Akehurst R, et al: J Med Econ 14: 53-64, 2011 PMID: 21222506) ステロイド骨粗鬆症に対してリセドロン酸に比べて腰椎骨密度を有意に増大させる (Roux C, et al: Osteoporos Int 23: 1083-90, 2012 PMID: 21975559) 年 1 回の利便性についての記述 (Carmona R, et al: Patient Prefer Adherence 3: 189-93, 2009 PMID: 19936161) 年 1 回投与は分割投与と同等の効果がある (Doggrell SA: Expert Opin Pharmacother 3: 1007-9, 2002 PMID: 12083999) 骨量の減少した閉経後女性において 5mg を 1.5 年毎に点滴静注 (6 年) した場合、プラセボと比較して椎体・非椎体脆弱性骨折のリスクを有意に低下させた (Reid IR, et al: N Engl J Med 379: 2407-2416, 2018 PMID: 30575489)

【効果発現時間】骨吸収マーカーは 15 日後、骨形成マーカーは 3 か月で低下 (Shiraki M, et al: J Bone Miner Metab 2016 PMID: 28000034)

【更新日】20240106

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。